

大会行事予定

1. 会場：気象庁（電話 03-212-8341）
 A会場：2階講堂
 B会場：5階第1会議室
 C会場：8階東京管区会議室
 ポスター・セッション：2階ロビー
2. 会期：5月24日（水）、25日（木）、26日（金）

行事			
大会（研究発表）	（A, B, C会場）	5月24日（水）	9:00~12:30 13:30~16:00
大会（ポスター・セッション概要紹介）	（A会場）		16:00~16:30
大会（ポスター・セッション）	（2階ロビー）		16:30~17:30
大会（研究発表）	（A, B, C会場）	5月25日（木）	9:00~12:00
総会・学会賞・藤原賞授与	（A会場）		13:00~14:00
学会賞・藤原賞受賞記念講演	（A会場）		14:00~15:00
シンポジウム	（A会場）		15:30~17:30
懇親会	（第3合同庁舎地下）		18:00~20:00
大会（研究発表）	（A, B, C会場）	5月26日（金）	9:00~12:00 13:00~17:00

総会次第

1. 開会の辞
2. 議長選出
3. 理事長挨拶
4. 学会賞授与
5. 藤原賞授与
6. 昭和63年度事業経過報告
7. 昭和63年度会計決算報告
8. 昭和63年度会計監査報告
9. 平成元年度事業計画案・予算案の審議
10. 「山本・正野論文賞」の設立について
11. 定款の細則「各賞受賞者選定規定」の改正
12. その他
13. 閉会の辞

なお、総会に引き続き学会賞受賞記念講演および藤原賞受賞記念講演を行う。

平成元年度春季大会

() は講演数 (第1種-第2種と講演番号), — は座長

		A 会 場	B 会 場	C 会 場
5月24日 (水)	9:00~ 12:30	気候 (8-9, A101~A117) —小寺邦彦—	局地循環・大気汚染 (10-9, B101~B119) —吉門 洋—	放射 (6-3, C101~C109) —青木忠生— 雲物理・積雲対流 I (9-1, C110~C119) —上田 博—
	13:30~ 16:00	大気大循環 (7-4, A151~A161) —向川 均—	エアロゾル (3-6, B151~B159) —岡田菊夫—	雲物理・積雲対流 II (7-7, C151~C164) —上田 博—
	16:00~ 17:30	ポスター・セッション (A会場で概要紹介後, 2階ロビーで講演) (P101~P114)		
5月25日 (木)	9:00~ 12:00	熱帯気象 (10-5, A201~A215) —栗原弘—	中層大気 (8-7, B201~B215) —塩谷雅人—	応用気象・数値計算手法 (4-2, C201~C206) —木村富士男— 観測手法 (7-3, C207~C216) —内野 修—
	13:00~ 14:00	総会 学会賞・藤原賞授与		
	14:00~ 15:00	学会賞・藤原賞受賞記念講演		
	15:30~ 17:30	シンポジウム		
5月26日 (金)	9:00~ 12:00	大気化学 (4-5, A301~A309) —中澤高清— オゾン I (2-4, A310~A315) —岡野章—	陸面過程 (5-6, B301~B311) —鳥谷 均—	気象力学 (4-3, C301~C307) —木本昌秀— 大気電気・総観規模現象 (8-2, C308~C317) —道本光一郎—
	13:00~ 17:00	オゾン II (9-9, A351~A368) —牧野行雄— —廣岡俊彦— —林田佐智子—	接地境界層・エクマン境界層 (9-11, B351~B370) —千葉 修—	中小規模現象 (15-7, C351~C372) —吉崎正憲—

注) 大会参加費 会員 1,000円, 学生会員 500円, 一般 1,500円

講演発表者へのお知らせ

1. A, B, C会場ともオーバーヘッド・プロジェクター使用可能です。
2. 講演および質疑時間は, 第1種講演はそれぞれ5分と2分以内, 第2種講演は10分と5分以内です。
3. スライドのマウントに番号をつけ, 上下をそろえて下さい。
4. ポスター・セッションの方法については「天気」12月号 (p.749) を参照して下さい。
またポスターに表題と発表者名を明記して下さい。

シンポジウム「オゾン層の科学—現状と課題—」

日 時：大会第2日（5月25日）15：30～17：30
 会 場：気象庁講堂
 座 長：関口理郎（日本気象協会）
 演 題：下道正則（高層気象台）：オゾン層の観測
 神沢 博（国立極地研究所）：オゾン層の力学
 近藤 豊（名大空電研究所）：オゾン層の化学
 佐々木徹（気象研究所）：オゾン層モデリング
 総合討論

研究会のお知らせ

大会の翌日に下記の研究会が行われます。興味のある方はご自由にご参加下さい。

1. 第3回梅雨研究会

日 時：5月27日（土）09：30～12：30
 会 場：東京大学理学部3号館 地球物理大講義室
 （3階）
 テーマ：雲で見る large-scale の梅雨前線
 プログラム：
 ① 二宮洸三（東京航空地台）：1979年梅雨期東アジアの雲システム分布
 ② *加藤内蔵進・平沢 尚彦・東 善彦・武田 喬男

（名大・水圏研）：暖候期の日本付近における雲で見る前線帯の特徴と変動

- ③ 秋山孝子（気研・予報）：梅雨前線活動の東西の違い
- ④ 児玉安正（弘前大・理）：南半球中緯度に見られる多雲量帯と梅雨前線との比較
- ⑤ 総合討論

問合せ先：〒464-01 名古屋市千種区不老町
 名古屋大学水圏科学研究所
 加藤内蔵進
 （電話 052-781-5111 内線5742）

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には、日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし著作者自身による利用の場合は、利用許諾の申請は不要です。

研究発表題目

(講演番号の * 印は第2種講演を, 発表者名の * 印は講演者を表す)

大会第1日(5月24日) 9時00分~12時30分

A会場 気候

座長 小寺 邦彦

- A101. 三浦芳敬・青木 孝(気象庁・長期予報): 台風の上陸数と最低気圧の経年変化
- *A102. 友田好文・橋本和也(東海大・海洋): 梅雨と秋雨の降雨量の逆相関について
- *A103. 篠田雅人(東大・地理): サヘルに干ばつをもたらす降水帯のふるまい
- *A104. 千葉 長・小寺邦彦(気研・気候): 6月の東アジアの循環と西シベリアの残雪
- *A105. *岩坂直人・花輪公雄(東北大・理): COADSによる北太平洋の海面フラックスの推算および SST 変動と海面フラックス変動との関係
- A106. *花輪公雄・吉川泰司・渡邊朝生(東北大・理): 北太平洋上の冬季の海面風応力場の ENSO イベントに関する合成図解析
- *A107. 久保田 効(気研・予報): 長波放射と海面温度との関係からみた東南太平洋長波放射の特異な強さについて
- *A108. *大淵 濟・樋口敬二(名大・水圏研): 海陸分布が全球的気候の平均状態に及ぼす効果
- A109. *畑澤宏善・岩嶋樹也(京大・理・気候): 最近100年間の気温分散値の変動
- A110. 角野有香(京大・理・気候): 過去80年間の熱帯の風速場の永年変化
- A111. *栗原弘一・小泉 耕(気象庁・長期予報): 日本の月平均気温の予測可能性について
- A112. 小泉 耕(気象庁・長期予報): 重回帰による気温予想とその成績について
- *A113. 中西 朗(新潟県山田小): 日本の白鳥観察数とハパロフスク寒気図——地球温暖化による個体数の増加——
- A114. *星野常雄・長尾 隆(幹サン気象調査): 気候変動論への気象熱力学の応用
- *A115. *長尾 隆・星野常雄(幹サン気象調査): CO₂増加に伴う大気の湿潤化
- A116. *福山 薫(三重大), 山本淳之(大阪電通大), 柏谷健二(神戸大): 過去30万年間の古気候永

年振動について

- *A117. *田近英一・松井孝典(東大・理): 地球環境の進化

B会場 局地循環・大気汚染

座長 吉 門 洋

- B101. 上野健一(筑波大), 山田知充(北大・低温研): 10分間雨量観測によるネパールヒマラヤの降水特性
- *B102. *中山 章・土井 優(防大・数物): 寒気先端部(head)の後面に発生した Low Altitude Wind Shear (LAWS)
- *B103. 渡辺 明(福島大・教育): 地表面状態の差異による局地循環の実態
- *B104. 鈴木力英(筑波大・地球科学): 中部日本における地表のベクトル平均風速と総観規模の気圧傾度との関係
- B105. 大河内康正(八代高専): 海風モデルのパラメータ依存性
- *B106. 余 偉明(筑波大・地球科学), 植田洋匡(国立公害研), 河村 武(筑波大・地球科学): k-ε乱流モデルを用いた海陸風の重力流の数値実験
- B107. *高橋俊二・木村富士男(気研・応用): 山谷風の強さと厚さに関する線形論による考察
- *B108. *新野 宏(気研・物理), 近藤裕昭(公害資源研): 加熱の日変化に起因する複雑地形上の局地循環の力学
- B109. 近藤裕昭(公害資源研): 中部山岳の力学的効果が関東地方の拡散場に及ぼす影響について(予備の実験)
- B110. *斉藤和雄・猪川元興(気研・予報): 「やまじ風」のシミュレーション
- *B111. *猪川元興・永沢義嗣(気研・予報): フェーン現象の成層状態及び山の高さへの依存性
- B112. 蒲生 稔(公害資源研): 関東平野の混合層(その7)
- B113. 佐橋 謙(岡山大・教育): 係留気球による岡山市のヒートアイランドの観測
- *B114. 福岡義隆(広島大・総合科学): 気象台移転前

後の資料に基づくヒートアイランド現象の評価

- B 115. *山本 晋・林 正康・水野建樹(公害資源研): 飛行機によるエアロゾル広域観測——比湿とエアロゾル粒径分布——
- B 116. 沢井哲滋(気象庁・予報): 関東地方の O_3 濃度分布の日変化——事例解析——
- B 117. *鈴木基雄(気象協会), 横山長之(公害資源研): パフモデルによる複雑地形上の拡散予測
- * B 118. 島貫 陸・*野村佳男(東京学芸大): 瞬間的な拡散パターンのシミュレーション
- * B 119. 鶴田治雄(横浜市公害研): 日本および世界の降水の酸性度ポテンシャルの比較

C会場 放射

座長 青木 忠生

- C 101. *高村民雄(防大・地球科学), 笹野泰弘(国立公害研): ライダーを用いたサンフォトメータの検定法
- C 102. *水野芳成・青木忠生・深堀正志(気研・物理): 海面上の放射特性の観測
- * C 103. *浅野正二・塩原匡貴(気研・気候): 対流圏エアロゾルの放射収支効果の観測
- C 104. *塩原匡貴・真野裕三・浅野正二・内山明博(気研・気候): 好晴積雲の雲量と反射率(II)——陸上および海上での航空機観測——
- * C 105. 真野裕三・浅野正二・塩原匡貴・内山明博(気研・気候): 層積雲の内部構造と短波放射特性
- C 106. 山内 恭(極地研): 衛星および地上観測による南極域の雲分布
- C 107. *深堀正志・青木忠生(気研・物理): 大気のエミッション観測による $10 \mu m$ 水蒸気連続吸収帯吸収係数の推定(II)
- C 108. 内山明博(気研・気候): 散乱過程を含む赤外

域の放射伝達方程式について

- * C 109. 田中正之・*渡辺 良(東北大・理): Photon path 解析を用いた放射特性の研究
雲物理・積雲対流 I
座長 上 田 博
- C 110. 武田喬男・加藤内蔵進・劉 国勝・*越田智喜(名大・水圏研), 趙 柏林・胡 成達・杜 金林・甄 進明(北京大): マイクロ波放射雲水量計の日中比較観測
- * C 111. 村上正隆・*松尾敬世・水野 量・山田芳則(気研・物理): 雲粒子ドロップゾンドの開発
- C 112. *垣内博行・権田武彦(東理大), 守矢一男(三井金属・電材研): 光散乱法による氷晶の内部構造の観察
- C 113. *金村直俊・播磨屋敏生(北大・理), 岡崎賢治(北大・環境): 内陸部での雪片の付着雲粒量の測定
- C 114. *梶川正弘(秋田大・教育)・Andrew J. Heymsfield (NCAR): 巻雲の中で観測された氷晶の Aggregation
- C 115. *横山悦郎・黒田登志雄(北大・低温研): 雪の結晶成長におけるパターン形成IV——円, 六角及び樹枝状パターン——
- C 116. 松尾敬世(気研・物理): 融解層内の雪粒子の併合と分裂について
- C 117. 山田芳則(気研・物理): 層状雲内の季節による雪粒子の違いについて
- C 118. 水野 量(気研・物理): 地上気象観測日原薄によるあられの出現特性
- C 119. *村上正隆・水野 量・山田芳則・松尾敬世(気研・物理): 対流性降雪雲の微物理構造——昭和63年度 HYVIS 観測の速報——

大会第1日(5月24日) 13時30分~16時00分

A会場 大気大循環

座長 向川 均

- * A 151. *内藤勲夫・菊地直吉(国立天文台): 大気・水圏・地球系の角運動量収支決算報告
- A 152. 田中 博(アラスカ大): ノーマルモード展開を用いた大気大循環のエネルギー論について
- * A 153. 岩崎俊樹(気象庁・数値予報): 傾圧性波動と中緯度・対流圏の子午面物質循環
- A 154. *木本昌秀(気象庁・数値予報), Michael Ghil

(UCLA): 中緯度季節内変動における準周期的モード

- A 155. 金谷年展(東北大・地理): 冬季におけるテレコネクションパターン連鎖のいくつかの様式について
- A 156. *宮崎保彦・新田 勲(気象庁・長期予報): 1月のフィリピン付近の対流活動と循環場
- A 157. 鬼頭昭雄(気研・気候): 500 mb 高度場のパーシステンス——気象研 GCM と観測の比較

- *A158. 孫 沈清 (中国新疆气象台; 東大・理): ECMWF と JMA 全球モデルの 500 mb 高度の予報精度
- A159. 露木 義 (気象庁・長期予報): 気象庁全球モデルによる30~60日振動の予報と延長予報の可能性
- A160. 時岡達志・遠藤昌宏・長井嗣信 (気研): MRI 大気海洋結合モデルのふるまい
- *A161. *野田 彰・時岡達志 (気研・気候): 二酸化炭素濃度倍増気候における降水様式の変化

B会場 エアロゾル

座長 岡田 菊夫

- *B151. *谷口 恭・菊地勝弘 (北大・理): 北極圏ノルウェイで観測されたエアロゾルの起源
- *B152. *大倉誠司 (北大・環境), 谷口 恭・菊地勝弘・松浦 馨 (北大・理): 係留気球によるエアロゾル粒子の観測
- *B153. 銭 公望・古賀聖治・石坂 隆・田中 浩 (名大・水圏研): 佐久島におけるエアロゾル粒子の性質について
- *B154. 岡田菊夫・吉川友章 (気研・応用), 田中豊頭 (気大), 成瀬 弘 (気研・応用): 沿岸大気中での個々の海塩粒子の変質について
- B155. *毛利英明 (札幌管区), 古川義純 (北大・低温研), 田沢雄二 (京大・理): 成層圏において採集された固体粒子の分析
- *B156. 岩坂泰信・*林 政彦 (名大・水圏研): 極域成層圏雲内で生成される重力沈降性粒子による地球化学的物質輸送
- *B157. *岩坂泰信・大和政彦・古賀聖治・林 政彦・小野 晃 (名大・水圏研), 近藤 豊・金田昌廣・鳥山哲司 (名大・空電研), 小口 高 (東大・理), 近藤幸治 (高層气象台), P. Aimedieu (CNRS), W.A. Matthews (DSIR): 北極の冬期成層圏でのエアロゾル直接採集—PSC 粒子の化学組成とオゾンホール—
- B158. *財前祐二・池上三和子 (気研・物理): スクリーンディフュージョンバッテリーを用いた CNC カウンターによる粒径分布の測定
- B159. 内野 修・田端 功 (気研・衛星観測), 高島英之 (筑波大): マルチカラーライダーによるミ-散乱粒子の観測

C会場 雲物理・積雲対流 II

座長 上田 博

- *C151. 村上正隆 (気研・物理): 対流雲の微物理構造の数値シミュレーション—1981.7.19 CCOP E case cloud—
- C152. 武田喬男・*三隅良平 (名大・水圏研): 組織化された降水セルの形成過程に関する数値モデリング
- *C153. *高橋 劭・原田 寛 (九大・理): バンド雲への組織化について—数値実験—
- *C154. *今須良一・岩坂泰信・武田喬男 (名大・水圏研): レーザ・レーダによる Cirrus の観測: II
- *C155. *岩波 越・菊地勝弘 (北大・理): 札幌での層状降水雲の鉛直構造
- *C156. *小林文明・菊地勝弘 (北大・理): 石狩平野に大雪をもたらす降雪雲の時間変化
- C157. *中井専人・真木雅之・八木鶴平 (国立防災センター・つくば): 盆地における降雪雲のドップラーレーダー観測
- C158. *佐藤晋介・藤吉康志・若濱五郎 (北大・低温研): トランスパースモードエコーのドップラーレーダー観測—積丹半島による地形効果とエコー強度分布—
- C159. *菊地勝弘・上田 博・小林文明・岩波 越・城岡竜一・高橋暢宏・松浦 馨・金村直俊 (北大・理): 1988年9月22日札幌近郊で発生した竜巻と降雹—その1: 観測の概要—
- C160. *小林文明・菊地勝弘 (北大・理): 1988年9月22日札幌近郊で発生した竜巻と降雹—その2: 竜巻の発生と気象状態—
- *C161. *城岡竜一・上田 博 (北大・理): 1988年9月22日札幌近郊で発生した竜巻と降雹—その3: ドップラーレーダーでみた竜巻の内部構造—
- C162. 上田 博 (北大・理): 1988年9月22日札幌近郊で発生した竜巻と降雹—その4: 雹粒の内部構造—
- C163. 武田喬男・服部文彦・*加藤内蔵進 (名大・水圏研): 寒気吹き出し時の海上の下層雲の分布の特徴
- *C164. *吉田 晋・菊地勝弘 (北大・理), 元木敏博 (気象庁・予報): GMS から見た日本海北部の冬の雲の特徴 (3)

大会第1日(5月24日)16時00分~16時30分
ポスター・セッション概要紹介

- P101. *猪川元興・永沢義嗣(気研・予報):多層流体中を、風上に伝播する、山によって励起された“bore”状擾乱
- P102. *二階堂義信・木田秀次(気研):物質輸送から見た大気の南北循環の季節による違い
- P103. *柴田清孝・青木忠生(気研): O_3 14 μ , CO_2 10 μ , CH_4 と N_2O の温室効果について
- P104. *高橋清利・村上勝人(気研・台風):GMS 及び GOES 赤外データによる汎太平洋域における雲域変動の解析——序報
- P105. 中島健介(東大・理):積雲対流の階層的組織化の数値実験~「積雲」・「クラスター」・「スーパークラスター」~
- P106. 三上正男・戸矢時義(気研・応用):改良された接地気象観測装置
- P107. *松井一郎・笹野泰弘・杉本伸夫(国立公害研):都市域における低層大気構造のミー散乱レーザーレーダーによる連続観測(1988年12月)
- P108. *甲斐憲次・二階堂義信・内野 修・田端 功(気研):黄砂のライダー観測と数値シミュレーション(5) 1986, 1987, 1988年の観測のまとめ
- P109. *和田 誠・青木周司(極地研), 瀬古勝基(名大・水圏研), 川口貞男(極地研):南極昭和基地での雲と降雪の観測
- P110. 北大・理学部レーダー観測グループ:1988年9月22日千歳市で発生した竜巻
- P111. 津田敏隆・*足立樹泰(京大・超高層), 増田悦久(通信総研), 高見友幸・加藤 進・深尾昌一郎(京大・超高層):RASS に用いる音波と電波パルス長の温度測定精度に対する影響
- P112. *鱧谷 憲・文字信貴・小元敬男(大阪府大・農):短スパン(3cm)超音波風速計の試作
- P113. *鈴木 睦・横田達也・竹内延夫(国立公害研), 松崎章好(宇宙研):大気光学モデルによる衛星大気センサー ILAS の検出能力の検討
- P114. *田中 実・丸山健人(気研・予報):画像データのビデオテープ化装置の利用法

大会第2日(5月25日)9時00分~12時00分

A会場 熱帯気象

座長 栗原 弘一

- *A201. 邊田有理江(京大・防災研):熱帯における台風の発生と関連した水蒸気量等の解析
- A202. 岡村博文(気研・台風):1988年8月の熱帯低気圧群——TD 発生期の降雨帯の振舞——
- A203. 平沢正信(気研・予報):局地モデルによる台風8213号に伴う降水の予測
- A204. 上野 充(気象庁・数値予報):気象庁数値予報モデルによる台風進路予報の精度
- A205. 中沢哲夫(気研・台風):スーパークラスターの2つのモード
- *A206. *高藪 縁(国立公害研), 村上勝人(気研・台風):1986年6月に東進した4個のスーパークラスターの構造
- A207. *内藤成規(気象衛星センター), 新田 勅(気象庁・長期予報):熱帯西部太平洋における対流活動のスペクトル解析
- A208. 西 憲敬(京大・理・気候):熱帯域30—60日変動の活動度の変化について
- A209. 大沢和裕(気象衛星センター):エルニーニョから反エルニーニョへの移行期に見られる顕著な雲量偏差パターンについて
- A210. 新田 勅(気象庁・長期予報):1988年の冷夏と熱帯の海面水温・対流活動
- A211. 川村隆一(筑波大・水理センター):西部太平洋熱帯域における季節内変動および年々変動モード
- *A212. 轡田邦夫(東大・大槌センター):太平洋上の海上風の準周期的経年変動特性
- *A213. 今井一郎(東海大・海洋):ENSO と台風(続報)
- *A214. *升本順夫・山形俊男(九大・応力研):水惑星モデルにおける大気海洋結合擾乱の発生
- A215. SANGA-NGOIE KAZADI(京大・理・気候): On the variability of the Hadley and Walker

circulations

B会場 中層大気

座長 塩谷 雅人

- B 201. 丸山健人・常岡好枝(気研・予報): 成層圏赤道波の垂直時間断面(1983~1988, シンガポール)
- B 202. *水野建樹・田口彰一・横山長之(公害資源研): AEROLOGICAL DATA による下部成層圏での最近の気温変化
- B 203. *小寺邦彦・山崎孝治(気研・気候): 上部成層圏循環の長期変動——北半球12月の場合(Ⅱ)
- B 204. *廣岡俊彦(気大), 神沢 博(極地研): 1984~85年の北半球極夜域で観測された特異な温度構造
- B 205. *山崎孝治・小寺邦彦(気研・気候): 南半球成層圏の冬から春の時期の年々変動
- *B 206. *廣田 勇・塩谷雅人・黒井啓子(京大・理), 平木 哲(気象庁・数値予報): 南半球成層圏波動と昇温現象
- B 207. *牛丸真司・田中 浩(名大・水圏研): プラネタリー波の強制に対する南半球の極渦の安定性
- *B 208. 谷貝 勇・山崎孝治(気研・気候): Gravity wave drag を導入した MRI GCM に現われた突然昇温について
- B 209. *柴田清孝・千葉 長・小寺邦彦(気研・気候): 成層圏の数値実験(Ⅱ)——突然昇温の事例解析——
- *B 210. *呉 登華・宮原三郎(九大・理): 下部熱圏非線形一日潮汐振動
- *B 211. 佐藤 薫(京大・理): MU レーダーにより観測される対流圏及び下部成層圏の鉛直風擾乱
- *B 212. *北村康夫・廣田 勇(京大・理): レーゾンゾンデ観測に基づく下部成層圏小規模擾乱の解析(3)
- *B 213. *深尾昌一郎・山本 衛・佐藤 亨・津田敏隆・加藤 進(京大・超高層): MU レーダーによる中間圏乱流散乱層の水平構造の観測
- *B 214. 津田敏隆・深尾昌一郎・加藤 進(京大・超高層): 重力波の飽和鉛直波数スペクトル
- B 215. *深尾昌一郎・有賀 理・山本 衛・津田敏隆・加藤 進(京大・超高層): MU レーダーによる対流圏界面高度の推定

C会場 応用気象・数値計算手法

座長 木村 富士男

- C 201. 福岡義隆(広島大・総合科学): 樹木・材木の温度拡散率と降水量との関係について
- *C 202. 柳原一夫(気象協会): 人間行動の意志決定に及ぼす気象の影響のファジィ測度解析
- C 203. *高橋俊二・木村富士男(気研・応用): 局地風モデルの境界条件について
- C 204. 山田慎一(気象庁・数値予報): Hybrid 座標プリミティブ方程式系の鉛直差分スキーム
- C 205. *北出武夫・栗原和夫(気象庁・数値予報): 狭領域モデルにおける放射の効果
- *C 206. 馬場 厚(気象庁・数値予報): 6時間予報解析サイクルと12時間予報解析サイクルの比較実験

観測手法

座長 内野 修

- *C 207. 高山陽三(気研・衛星観測): 赤外 6.5 μm 水蒸気帯の衛星観測による上層水蒸気の推定
- *C 208. 内野 修・田端 功・甲斐憲次(気研・衛星観測), *高島英之(筑波大・院), 河村 武(筑波大・地球科学): マルチカラーライダーによる中層大気の気温測定
- C 209. *長澤親生・阿保 真(都立大・工), 内野 修(気研・衛星観測): 半導体レーザーレーダーと CCD カメラを利用した雲の流れの速さの測定
- C 210. 青柳二郎・鈴木 修・横山辰夫(気研・衛星観測): ドップラー測風に於ける曖昧さの除去
- C 211. *横山辰夫・青柳二郎・鈴木 修(気研・衛星観測): 単一ドップラーレーダーによる非一様風の測定
- C 212. 石原正仁(気研・台風): ドップラーレーダーのデュアルモードと単一モードによる風の観測の比較
- C 213. *大野裕一・井口俊夫・梅原俊彦・野崎憲朗(通信総研): 短波海洋レーダを用いた海上風の測定について
- C 214. *沖 大幹・虫明功臣(東大・生産研), 吉野文雄(土木研): 1988年梅雨時に観測された Z-R 関係
- C 215. *中村健治(通信総研), R. Meneghini(NASA/GSFC): 降雨の海面反射レーダエコーの特性
- *C 216. 岡林俊雄(気象協会): 降水雲層通過時のゾン

デの温度計(サーミスター)の振舞について
—RS II-56型ゾンデの温度計(パイメタル)

との比較—

大会第3日(5月26日) 9時00分~12時00分

A会場 大気化学

座長 中澤 高 清

- A 301. 廣瀬勝己・青山道夫・杉村行勇(気研・地球化学): 筑波の大気浮遊塵中で観測されたチェルノブイリ原子力発電所事故に由来する ^{137}Cs , ^{90}Sr およびプルトニウムについて
- A 302. 青山道夫(気研・地球化学): 最近のつくばにおける Cs-137 及び Sr-90 降下量
- A 303. *高谷祐吉・青山道夫・広瀬勝己・杉村行勇(気研・地球化学): 日本全国11地点のチェルノブイリ原発事故由来の Sr-90 降下量
- A 304. 鶴田治雄(横浜市公害研): 日本におけるメタン濃度の長期変動と季節変化(II)
- *A 305. *高田久美子・村松久史(京大・防災研): 大気中メタンの季節変化及び日変化の観測
- *A 306. *村松久史・高田久美子(京大・防災研): 阪神地方のメタンの分布・発生
- *A 307. *青木周司・和田 誠・川口貞男(極地研), 中澤高 清・村山昌平(東北大・理), 瀬古勝基(名大・水圏研): 南極昭和基地における大気中の CH_4 濃度の連続測定
- *A 308. *中澤高 清・村山昌平・橋田 元・酒井千春・田中正之(東北大・理), 伊藤富造・本田秀之(宇宙研): 大気球による成層圏 CO_2 ・ CH_4 濃度の測定
- *A 309. *徐 国鈞・村松久史(京大・防災研): 成層圏気体成分に対する太陽紫外線変動の効果

オゾン I

座長 岡野 章 一

- *A 310. *笹野泰弘・中根英昭・林田佐智子・杉本伸夫・松井一郎・湊 淳(国立公害研): 成層圏・対流圏オゾン観測用多波長レーザーレーダー: その3 上部成層圏オゾン観測(1988年10月~12月)の結果
- *A 311. *内野 修・田端 功・甲斐憲次(気研・衛星観測), 高島英之(筑波大): 成層圏オゾン, エーロゾル, 気温同時観測用 MRI マーク II ライダー
- *A 312. *岡野章一・田口 真・福西 浩(東北大・理):

波長可変半導体レーザーヘテロダイン分光計による成層圏オゾンおよび N_2O の観測: 1. 観測装置および方法

- A 313. *田口 真・岡野章一・福西 浩(東北大・理): 波長可変半導体レーザーヘテロダイン分光計による成層圏オゾンおよび N_2O の観測: 2. データ解析および観測結果
- A 314. 近藤 豊・岩田 晃・高木増美(名大・空電研), P. Aimeidieu (CNRS), W.A. Matthews (DSIR), Pirre (LPCE): 成層圏 NO/NO_y の気球測定
- *A 315. *柴崎和夫(國学院大), 岩上直幹・北 和之・小川利紘(東大・理): 北半球中緯度帯における成層圏 NO_2 高度分布の変動

B会場 陸面過程

座長 鳥谷 均

- *B 301. *井上君夫・阿部博史(東北農試・気象特性研): 久慈沿岸で観測される海霧について
- B 302. *文字信貴・鱧谷 憲・小元敬男(大阪府大・農): 冬期, 裸地面からの蒸発と土壌水分変動
- B 303. 近藤純正・*三枝信子(東北大・理), 佐藤 威(国防防災センター): 土壌面からの蒸発過程における地中の透水・熱伝導機構
- *B 304. *大内彩子・沼口 敦・増田耕一(東大・理): 蒸発効率が 大気-地表系エネルギー収支に及ぼす効果—鉛直1次元モデルによる研究—
- *B 305. 住 明正・*沼口 敦・大内彩子・増田耕一・山中康裕・武山由花(東大・理): 大気-海洋-陸面系における地表面状態の大気大循環に及ぼす影響について(第一報)固定した蒸発効率に対する依存性
- B 306. *増田耕一・篠田雅人(東大・理): 植生指標の季節変化(序報)
- *B 307. 佐々木秀行(気象衛星センター): GMS で推定したユーラシア大陸東側とオーストラリア大陸の熱慣性
- B 308. 近藤純正・桑形恒男・*住岡昌俊(東北大・理): 複雑地形上での広域熱収支解析における昇温量の推定法

- *B 309. 近藤純正・桑形恒男・*益子直文・住岡昌俊(東北大・理)：中部日本における日中の熱収支解析
- B 310. 加藤内蔵進(名大・水圏研)：中国乾燥地域付近の大気成層と循環場の季節変化
- *B 311. 安成哲三(筑波大・地球科学), *鬼頭昭雄・時岡達志(気研・気候)：ユーラシア大陸の積雪が北半球夏の気候に及ぼす影響(Ⅱ)——MRI・GCM による数値実験——

C会場 気象力学

座長 木本昌秀

- C 301. 酒井 敏(京大・教養)：モアレ法による内部重力波の可視化
- C 302. 新野 宏(気研・物理)：粗度のある地表面上の順圧流の室内実験
- *C 303. 阿部成雄(防大)：収束を伴う順圧渦の安定性
- *C 304. 片山桂一・金久博忠(気大)：Modon の非線形安定性について
- *C 305. *加藤輝之(気象庁・海上気象), 松田佳久(気大)：回転球面上での三次元大気の熱源に対する線型応答
- C 306. *向川 均(東京管区), 木本昌秀(気象庁・数値予報), 野村真佐子・余田成男(京大・理)：予報誤差変動の力学的解釈：予報誤差予測の可能性について
- C 307. *栢原孝浩・岡本寿夫・瓜生道也(九大・理)：FGGE データにおける相関次元と最大リアップ指数——東西方向に波数分解した場合——

大気電気・総観規模現象

座長 道本光一郎

- C 308. 道本光一郎(防大・地学)：夏季雷観測速報(レーダーエコー強度の高度変化と発雷)
- C 309. 竹内利雄・仲野 黄・河崎善一郎・長谷正博・中田 澁(名大・空電研), 舟木数樹(埼玉大・工)：極めて特異な雷雲
- *C 310. *北川信一郎・越智久美子・間正みゆき(東京家政大), 吉永泰祐(気象庁・予報)：日本海沿岸の冬の雷雲の規模
- C 311. *北川信一郎・越智久美子・間正みゆき(東京家政大), 吉永泰祐(気象庁・予報)：日本海沿岸の冬季雷の発生原因
- C 312. 檜尾守昭(気研・台風)：寒冷前線前面の下層ジェットの解析によるモデル的表現の改良
- C 313. *鈴木 修・青柳二郎・横山辰夫(気研・衛星観測)：寒冷前線に伴うウィンドシアアの観測
- C 314. *森 一正・青梨和正(気研・予報), 藤田由紀夫(気象庁・海上気象)：寒冷前線に伴う降水エコーの時間変化——九州西方海上——
- C 315. *平沢尚彦・加藤内蔵進・武田喬男(名大・水圏研)：日本付近における、雲でみた前線帯の変動(暖候期)
- C 316. 柯 史釗・浅井富雄(東大・海洋研)：東アジア・西太平洋域における雲の日変化
- *C 317. *山崎信雄(気研・台風), T.-C. Chen(Iowa 州立大)：梅雨前線の構造及び大規模場との相互作用の解析

大会第3日(5月26日) 13時00分～17時00分

A会場 オゾンⅡ

座長 牧野行雄
廣岡俊彦
林田佐智子

- A 351. *堤 之智・牧野行雄(気研・物理), 廣田道夫(高層气象台)：筑波における地表大気中の O_3 と CH_4 の相関
- A 352. 牧野行雄・堤 之智・二階堂義信(気研)：対流圏オゾンの広域観測——INSTAC 速報——
- A 353. 光本茂記・溝口次夫(国立公害研), 栗田秀實(長野県衛生公害研), 早狩 進(青森県公害センター)：日本列島におけるバックグラウンド・オゾン濃度について——1983年～現在の連続

測定より——

- *A 354. 青木忠生(気研・物理)：衛星からの大気気体鉛直分布測定装置——シミュレーション
- A 355. *鈴木勝久・松本直記(横浜国大・教育), 坪田幸政(慶応高), 小池 真(東大・理)：人工衛星「おおぞら」による紫外大気散乱光の長期観測
- *A 356. *小池 真・小川利紘(東大・理), 鈴木勝久(横浜国大・教育)：人工衛星「おおぞら」観測による成層圏オゾンのグローバル分布
- *A 357. 塩谷雅人(京大・理), John C. Gille(NCAR)：SBUV衛星観測にもとづく成層圏オゾンの1年および半年周期変動について

- *A 358. *坂東 博・高木博夫・鷺田伸明(国立公害研): フロン・ハロン類による成層圏オゾン破壊——光化学反応チャンパーを用いたモデル実験——
- *A 359. 畠山史郎(国立公害研), Ming-Taun Leu (JPL): リザーバー化合物と HCl との反応
- A 360. *林田佐智子・秋元 肇(国立公害研): 一次元光化学拡散モデルを用いた成層圏オゾン変動予測の研究(1) 紫外線透過量の計算
- A 361. 近藤幸治(高層気象台), 岩坂泰信(名大・水圏研), 川平浩二(富山高専): 南極成層圏オゾン量と気温の対応
- *A 362. 忠鉢 繁(気研・物理): 昭和基地における月平均オゾン全量と月平均気温の関係(オゾン垂直分布の気温の変化に対する応答)
- *A 363. 神沢 博・川口貞男(極地研): 1988年南極の突然昇温と浅くなったオゾンホール
- A 364. 近藤 豊・岩坂泰信・岩田 晃(名大・空電研), P. Aimeidieu (CNRS), W.A. Matthews・P.V. Johnston (DSIR), Williams (Denver 大): 北極オゾン層観測キャンペーン
- A 365. 川平浩二(富山高専), 広岡俊彦(気大): 北極成層圏における気温の年々変動——オゾン減少との関係
- A 366. 谷貝 勇(気研・気候): 海面水温を変えた実験におけるオゾンの変化について
- *A 367. 小寺邦彦・*山崎孝治(気研・気候): 最近の南半球の下部成層圏の循環の変化について
- *A 368. *秋吉英治・瓜生道也(九大・理): 子午面流による極域オゾンの季節変動
- B 会場 接地境界層・エクマン境界層**
座長 千葉 修
- *B 351. *大滝英治・塚本 修(岡山大), 岩谷祥美(日大・生産工), 光田 寧(京大・防災研), 片岡毅(関西総合環境センター): 海面上での二酸化炭素の乱流輸送(3)
- *B 352. 米谷俊彦(岡山大・資生研), Roger H. Shaw (カルフォルニア大・デービス校): 植物群落上の乱流特性について(26)
- *B 353. 石田廣史(神戸商船大), 光田 寧(京大・防災研): 中規模周波数領域における風速と気温のスペクトルの季節変化
- B 354. *森 征洋(香川大・教育), 光田 寧(京大・防災研): 風速計の動特性と最大瞬間風速について
- B 355. *塚本 修・大滝英治(岡山大・教養), 岩谷祥美(日大・生産工), 光田 寧(京大・防災研): 長大棧橋を用いたバルク輸送係数の推定
- *B 356. *加藤真規子・萩野谷成徳(気研・物理), 花房龍男(札幌管区): 複雑地形上における気流の特性——風洞実験と現地観測との比較——(II)
- B 357. *内藤玄一(防大・地球科学), 佐々木保徳(海洋センター), 八木鶴平(国立防災センター): 海水面と海面上の乱流の比較
- B 358. *佐藤 威・佐藤篤司・東浦将夫(国立防災センター・新庄): 地吹雪時の大気乱流観測
- B 359. 菊地時夫・清水基博(高知大・理): 3成分モノスタティックソーダによるエコーの立体解析
- *B 360. 阿部成雄・遠峰菊郎・*引地 功・高橋 亨(防大・地学): 三沢飛行場におけるライダーを用いた霧の観測
- *B 361. *栗田 進・岡田菊夫・成瀬 弘(気研・応用), 上野丈夫(高層気象台), 三上正男(気研・応用): 関東平野北部の霧に関して(II)
- *B 362. *近藤裕昭・水野建樹・林 正康・吉門 洋・山本 晋・横山長之(公害資源研): 接地逆転層の形成過程について
- B 363. *藤谷徳之助・萩野谷成徳(気研): 熱帯域における大気境界層の観測(3)
- B 364. *萩野谷成徳・藤谷徳之助(気研): 熱帯域における大気境界層の観測(4)——熱帯域の大気混合層——
- B 365. 中村晃三(東大・海洋研): 放射と対流で平衡になった雲を含む混合層の数値実験 その1: 雲によらない放射冷却率を与えた場合
- B 366. 横山長之(筑波混合層研究グループ; 公害資源研): 混合層における鉛直拡散実験(2)
- *B 367. 鈴木 靖・木村竜治(東大・海洋研): 対流混合層内のサーマルによる渦粘性効果(第2報完結)
- *B 368. *石川明弘・千葉 修(高知大・理): 海風前線の侵入時刻と前線幅(接地気層での観測[III])
- *B 369. *千葉 修・石川明弘(高知大・理): 海風前線最下部での渦の構造(接地気層での観測[IV])
- *B 370. *松浦 馨・上田 博(北大・理): 前線付近の大気境界層の構造——寒冷前線前面の風の構造——

C会場 中小規模現象

座長 吉崎正憲

- *C351. 二宮洗三(新潟地台): 1979年梅雨期東アジアの雲分布——組織化された深い対流雲システム・ゾーン——
- *C352. 秋山孝子(気研・予報): 梅雨前線上の擾乱の立体構造
- C353. *桜田正美・鈴木和史(気象衛星センター): 衛星から得られるCbクラスターの発達・衰弱の特徴
- C354. 鈴木和史(気象衛星センター): 衛星の赤外データによる降水強度推定(その2)
- C355. *岩崎博之・武田喬男(名大・水圏研): 長寿命の中規模雲塊のEvolutionについて
- C356. 牛山素行(信州大・農): 局地的降水現象の表現方法について——1988年8月27・28日の長野県伊那地区の降水を事例として——
- C357. *榊原 均・石原正仁・田畑 明・赤枝健治・横山辰夫(気研): 亜熱帯海洋上の寒冷前線に伴う降水系の構造(Ⅱ)——屈曲点付近の降水系の構造——
- *C358. *永田 雅・小倉義光(イリノイ大): 1982年長崎豪雨の予報実験
- *C359. 平沢正信(気研・予報): 梅雨前線帯上の中間規模擾乱と降水系の数値実験(Ⅲ)
- C360. 浅井富雄・*吉崎正憲・多田英夫・肥後雅博・中村晃三・石川浩治・三沢信彦(東大・海洋研): 1988年7月に九州で行った豪雨に関する特別観測について
- C361. *肥後雅博・吉崎正憲・浅井富雄(東大・海洋研): 1988年7月九州付近にみられたクラウドクラスターのライフサイクル(1)
- C362. *吉住禎夫・青梨和正(気研・予報): 梅雨前線帯上の済州島付近に出現した停滞性低 T_{BB} 域
- C363. *田畑 明・赤枝健治・島津好男・岡村博文・榊原 均・石原正仁(気研・台風): 梅雨前線上で観測されたクラウドクラスターを構成するメソ降水システム群の振舞い
- C364. *石原正仁・榊原 均・田畑 明・赤枝健治・島津好男・岡村博文(気研・台風), 藤吉康志(北大・低温研): 梅雨前線上に発生したクラウドクラスターを構成するメソ降水システムの構造
- C365. *藤吉康志・遠藤辰雄・坪木和久・佐藤晋介・若濱五郎(北大・低温研): 1988年7月17日に九州を通過したクラウドクラスターの3次元レーダエコー構造
- C366. *菊地勝弘・上田 博・岩波 越・高橋暢宏(北大・理), 岡崎賢治(北大・環境): 1988年7月長崎県西海町における降雨観測——その1: 観測の概要——
- *C367. *上田 博・高橋暢宏・岩波 越・城岡竜一・菊地勝弘(北大・理): 1988年7月長崎県西海町における降雨観測——その2: 7月17日のガストフロントの動態——
- *C368. *高橋暢宏・菊地勝弘・上田 博・岩波 越(北大・理): 1988年7月長崎県西海町における降雨観測——その3: 7月17日豪雨のレーダー解析——
- *C369. *岡崎賢治(北大・環境), 播磨屋敏生(北大・理): 1988年7月長崎県西海町における降雨観測——その4: 梅雨前線付近での雨滴粒径分布の特徴——
- C370. *竹田 厚・渡部 勲(国立防災センター), 吉崎正憲・多田英夫(東大・海洋研): MOS-1衛星が観測したクラウドクラスターとその周辺の水蒸気分布
- C371. 萬納寺信崇(気象庁・数値予報): 気象庁“10kmモデル”による1988年7月17日の九州の雨
- C372. 瀬上哲秀・柏木啓一・馬場 厚(気象庁・数値予報): 気象庁・日本域モデル(JSM)による梅雨前線上の大雨の予報実験